

# 宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター：宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第36週の発生動向

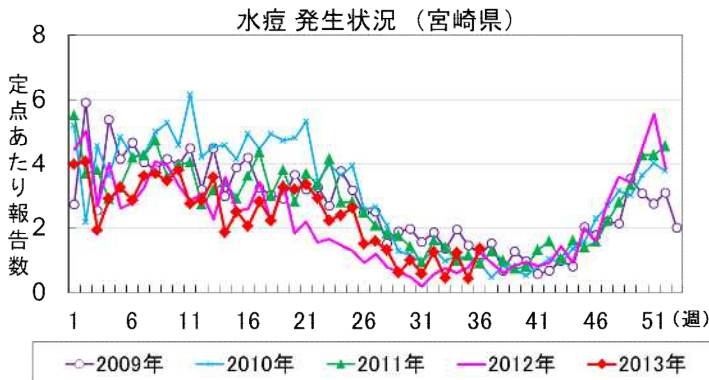
定点医療機関からの報告総数は694人（定点あたり22.9）で、前週比103%と横ばいであった。

前週に比べ増加した主な疾患は水痘で、減少した主な疾患は手足口病であった。

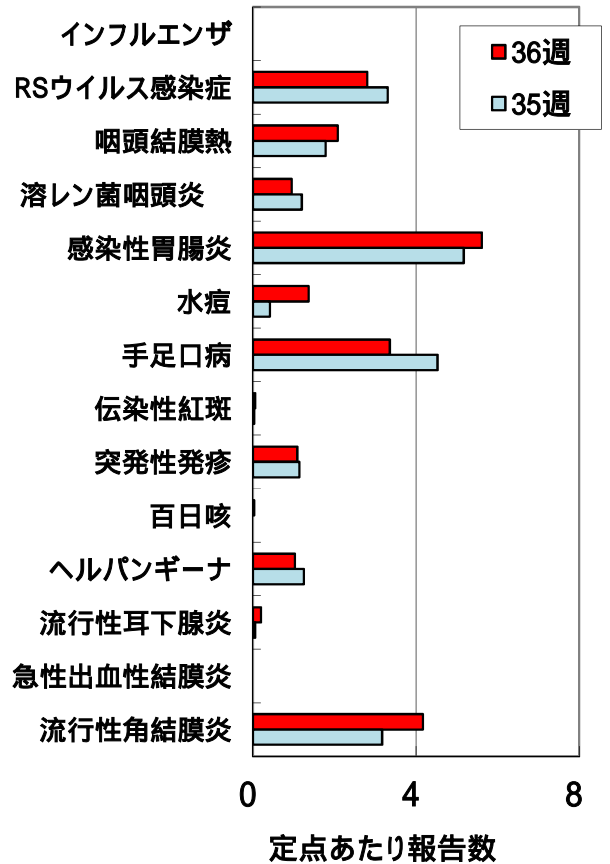
インフルエンザ・小児科定点からの報告

### 【水痘】

・報告数は49人（1.4）で前週比327%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値\*（1.1）の約1.3倍である。小林（4.3）、延岡（3.5）保健所からの報告が多く、年齢別では1歳から3歳が全体の約7割を占めた。

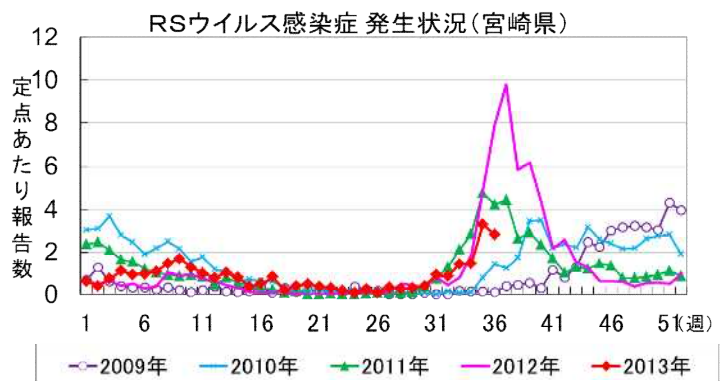


## (前週との比較)



### 【RSウイルス感染症】

・報告数は101人（2.8）で前週比85%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値\*（2.7）と同程度である。延岡（7.8）、都城（5.5）保健所からの報告が多かった。年齢別では6ヶ月未満が全体の約1割、6～11ヶ月が約2割、1歳が約半数、2歳が約1割を占めた。



\* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値

### 基幹定点からの報告

無菌性髄膜炎：日南保健所管内で1人報告された。患者は5歳。

## 流行警報レベル開始基準値超過疾患

保健所名	流行警報レベル開始基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	なし
日南	咽頭結膜熱(6.0)、手足口病(6.0)
小林	咽頭結膜熱(4.3)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	なし

\* 流行警報レベル開始基準値 \*  
 ・咽頭結膜熱(3.0)  
 ・手足口病(5.0)

## 全数把握対象疾患 (36週までに届出のあったもの)

- 1 類感染症： 報告なし。
- 2 類感染症： 結核 4 例。
- 3 類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症 26 例。
- 4 類感染症： 報告なし。
- 5 類感染症： 後天性免疫不全症候群 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	70 歳代	無症状病原体保有者	-
			80 歳代	その他の結核 (結核性胸膜炎)	呼吸困難
		都城	60 歳代	肺結核	咳、痰
			70 歳代	その他の結核 (じん肺)	咳、痰、呼吸困難
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	24例(全て無症状病原体保有者) 原因菌は全て、O血清型不明(VT1産生) 【表1】に年齢別報告数示す。		
		高千穂	1 歳	患者	水様性下痢、血便 原因菌：O103(VT1産生)
			1 歳	無症状病原体保有者	原因菌：O血清型不明(VT1産生)
5類	後天性免疫不全症候群	宮崎市	20 歳代	無症状病原体保有者	-

【表 1】年齢別報告数 (腸管出血性大腸菌感染症)

2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	8歳	30歳代
2	6	4	5	3	1	3

## 病原体情報（衛生環境研究所微生物部 平成 25 年 9 月 8 日までに検出）

### 細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Salmonella</i> O8群血清型不明	5～9	女	2013.8.3	発熱(38.0)、下痢	便	2013.8.12
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	0～4	男	2013.8.5	胃腸炎、下痢、血便	便	2013.8.14
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	80歳代	女	2013.8.8	下痢	便	2013.8.14
腸管毒素原性大腸菌(O153:H12 ST <sub>h</sub> )	10歳代	男	2013.8.10	ETEC疑 ST産生、発熱(38～39)、下痢、嘔気、嘔吐、腹痛	便	2013.8.20
腸管毒素原性大腸菌(O153:H12 ST <sub>h</sub> )	40歳代	女	2013.8.10	ETEC疑 ST産生、発熱(38～39)、下痢、嘔気、嘔吐、腹痛	便	2013.8.20
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	0～4	女	2013.8.9	無症状	便	2013.8.20
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	30歳代	女	2013.8.12	無症状	便	2013.8.20
腸管毒素原性大腸菌(OUT:H16 ST <sub>p</sub> )	10歳代		2013.8.15	ETEC疑 ST産生	便	2013.8.27
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	5～9	女	2013.8.15	下痢	便	2013.8.22
腸管凝集付着性大腸菌(O127a:H21 aggR)	0～4		2013.8.16	EPEC疑	便	2013.8.23
<i>Clostridium perfringens</i>	70歳代	男	2013.8.2	敗血症、発熱(39.1)ショック、低血圧	血液	2013.8.27
腸管出血性大腸菌(O157:H7 VT1,2)	0～4	女	2013.8.17	EHEC疑、下痢、嘔気、嘔吐、血便、腹痛	便	2013.8.23
腸管出血性大腸菌(O136:HUT VT1)	80歳代	女	2013.8.15	発熱(37.7)、下痢、嘔吐	便	2013.8.30
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	5～9		2013.8.20	EHEC疑、下痢、腹痛	便	2013.9.5
腸管出血性大腸菌(O136:HUT VT1)	80歳代	男	2013.8.20	無症状	便	2013.8.30
<i>Salmonella</i> Singapore (O7:6:k:e,n,x)	20歳代	男	2013.8.19	下痢、腹痛	便	2013.8.27
<i>Salmonella</i> Braenderup (O7:e,h:e,n,z15)	5～9	男	2013.8.20	下痢、腹痛	便	2013.8.29
<i>Campylobacter jejuni</i>	10歳代	男	2013.8.23	感染性胃腸炎、ギランバレー症候群、発熱(38.0)、下痢	便	2013.8.27
パラ百日咳菌	0～4	女	2013.8.23	百日咳疑、気管支炎	鼻汁	2013.9.4
<i>Salmonella</i> O4群血清型不明	0～4	女	2013.8.22	下痢、血便、腹痛	便	2013.8.27
腸管病原性大腸菌(O157:H16 eae)	0～4	男	2013.8.23	胃腸炎、下痢	便	2013.9.3
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0～4	男	2013.8.26	EHEC疑、水様性下痢	便	2013.9.5
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	70歳代	女	2013.8.27	EHEC疑、下痢、嘔気、嘔吐、血便	便	2013.9.3
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0～4	女	2013.8.28	EHEC疑、水様性下痢	便	2013.9.5
<i>Campylobacter jejuni</i>	10歳代	男	2013.8.22	カンピロバクター腸炎、発熱、下痢、嘔気、嘔吐、頸部硬直	血液	2013.8.30
<i>Campylobacter jejuni</i>	10歳代	男	2013.8.22	カンピロバクター腸炎、発熱、下痢、嘔気、嘔吐、頸部硬直	便	2013.8.30
<i>Salmonella</i> Manhattan(O8(O6):d:1,5)	50歳代	男	2013.8.27	便がコロコロしている	便	2013.9.4
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	20歳代	女	2013.9.3		便	2013.9.6

感染性胃腸炎およびギランバレー症候群を発症した10歳代の男性患者から、*Campylobacter jejuni* が分離された。国立感染症研究所の病原微生物検出情報(IASR) Vol.27によると、ギランバレー症候群患者の約30%は*C. jejuni* 感染症に関連したものと推定されている。ギランバレー症候群は、急に発症する末梢神経疾患で、四肢の運動麻痺や呼吸筋麻痺、神経麻痺等を主症状とする。予後は良好であることが多いが、*C. jejuni* 感染症に関連したギランバレー症候群は末梢神経障害をきたしやすく、本症の先行感染の病原体としては高頻度で重症化し、後遺症を残すという報告がある。

0歳児からパラ百日咳菌が分離された。パラ百日咳菌は百日咳菌に比べ症状が軽いとされているが、本県では分離事例が少ないため、疫学的な背景も含め詳細については不明な点が多い。なお、菌の分離はシクロデキストリン固形培地(CSM)等でコロニーおよびその周辺が褐色を呈するという特徴があり、また、百日咳菌に比べて発育が早いことなどから比較的容易である。なお、菌の同定は市販の抗血清等が無いことから、パラ百日咳菌に特有の遺伝子などを調べる必要がある。

## ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	検出日
アデノウイルス11型	8	男	2013.7.16	出血性膀胱炎	尿	2013.8.30
コクサッキーウイルスA6型	8M	女	2013.7.17	エンテロウイルス感染症疑い、39.0、口内炎、発疹	咽頭ぬぐい液	2013.8.30
コクサッキーウイルスB3型	1M	女	2013.7.31	ウイルス性髄膜炎疑い、発熱	咽頭ぬぐい液、髄液	2013.9.2
エコーウイルス30型	5	男	2013.7.30	髄膜炎疑い、39.0	便	2013.9.2

出血性膀胱炎を呈した幼児からアデノウイルス11型が検出された。  
 エンテロウイルス感染症疑いの乳児からコクサッキーウイルスA6型が検出された。  
 ウイルス性髄膜炎疑いの乳児からコクサッキーウイルスB3型が分離された。  
 髄膜炎疑いの幼児からエコーウイルス30型が分離された。

## 全国第 35 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 12.8 で、前週比 99%と横ばいであった。今週増加した主な疾患はRSウイルス感染症で、減少した主な疾患は水痘であった。

RSウイルス感染症の報告数は2,004人(0.64)で前週比156%と増加した。宮崎県(3.3)、島根県(3.0)、佐賀県(2.6)からの報告が多く、年齢別では2歳以下が全体の約9割を占めた。

手足口病の報告数は13,297人(4.3)で前週比100%と横ばいであった。新潟県(12.2)、長野県(10.8)、北海道(8.2)からの報告が多く、年齢別では6ヶ月から3歳が全体の約8割を占めた。

### 全数把握対象疾患（全国第 35 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	381例				
3類感染症	細菌性赤痢	7例	腸管出血性大腸菌感染症	173例	腸チフス	1例
	パラチフス	1例				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	2例	オウム病	1例
	重症熱性血小板減少症候群	1例	デング熱	11例	日本紅斑熱	8例
	マラリア	1例	ライム病	6例	レジオネラ症	20例
	レプトスピラ症	2例				
5類感染症	アメーバ赤痢	13例	ウイルス性肝炎	2例	急性脳炎	5例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	後天性免疫不全症候群	19例
	ジアルジア症	3例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	4例
	梅毒	24例	破傷風	1例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例
	風しん	55例	麻しん	3例		

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2013年 第36週(09月02日～09月08日)

疾病名		第35週	第36週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	119	101	16	33	31	9	1	5		6	
	定点あたり	3.31	2.81	1.60	5.50	7.75	3.00	0.33	1.25	0.00	1.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	64	75	19	5	2	18	13	8	2	7	1
	定点あたり	1.78	2.08	1.90	0.83	0.50	6.00	4.33	2.00	2.00	1.75	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	43	34	9	2	11	2		2	1	6	1
	定点あたり	1.19	0.94	0.90	0.33	2.75	0.67	0.00	0.50	1.00	1.50	1.00
感染性胃腸炎	報告数	186	202	44	30	4	36	37	15	6	27	3
	定点あたり	5.17	5.61	4.40	5.00	1.00	12.00	12.33	3.75	6.00	6.75	3.00
水痘	報告数	15	49	8	4	14		13	3		7	
	定点あたり	0.42	1.36	0.80	0.67	3.50	0.00	4.33	0.75	0.00	1.75	0.00
手足口病	報告数	163	121	39	21	11	18	1	18		12	1
	定点あたり	4.53	3.36	3.90	3.50	2.75	6.00	0.33	4.50	0.00	3.00	1.00
伝染性紅斑	報告数	1	2	1					1			
	定点あたり	0.03	0.06	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	41	39	15	1	8	2	4	6		1	2
	定点あたり	1.14	1.08	1.50	0.17	2.00	0.67	1.33	1.50	0.00	0.25	2.00
百日咳	報告数		1								1	
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	45	37	12	4	6	3		4		7	1
	定点あたり	1.25	1.03	1.20	0.67	1.50	1.00	0.00	1.00	0.00	1.75	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	2	7	1		3			1		1	1
	定点あたり	0.06	0.19	0.10	0.00	0.75	0.00	0.00	0.25	0.00	0.25	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	19	25	16	8	1						
	定点あたり	3.17	4.17	5.33	4.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1					1				
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2013年第1週～36週)

2類感染症	急性灰白髄炎	1例	結核	184例(4)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	84例(26)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	1例	重症熱性血小板減少症候群	4例
	つつが虫病	4例	デング熱	3例	日本紅斑熱	9例
	レジオネラ症	8例				
5類感染症	アメーバ赤痢	7例	ウイルス性肝炎	3例	急性脳炎	6例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2例	後天性免疫不全症候群	7例(1)
	侵襲性肺炎球菌感染症	2例	梅毒	7例	破傷風	4例
	風しん	23例				

( )内は今週届出分、再掲